

自らのDX 「Convi.BASE自社導入」

資産管理業務を効率化

基幹システムとの連携で、
1回の棚卸しにつき約6,000時間の削減に成功



NTT-ATは、「2025年の崖」対策の一環として推進した基幹システムのクラウド化をきっかけに、社内統制上の重要項目である資産管理業務の効率化に取り組みました。固定資産や備品の現物管理ができるサービスを比較・評価した結果、シンプルな操作感と将来の拡張性、WinActorとの親和性が高いことが決め手となりConvi.BASEを導入。現物管理で大きな負担となっていた棚卸し業務を効率化できただけでなく、あらゆる物の管理をConvi.BASEに集約し、WinActorを活用し基幹システムと連携することで、資産管理業務全体の効率化を実現しました。

資産管理業務の課題

-  システム老朽化に伴う不具合の多発
-  棚卸し専用の読み取り端末の利用調整
-  セキュリティ管理との一体的な運用

導入効果

-  棚卸しの一連作業が省力化
1度の棚卸しで**約6,000時間**削減
-  32,000件の固定資産など
資産管理業務の効率化、業務品質向上
-  複数の業務システムを一か所に集約
「今」の状態を、**すぐに把握**できる

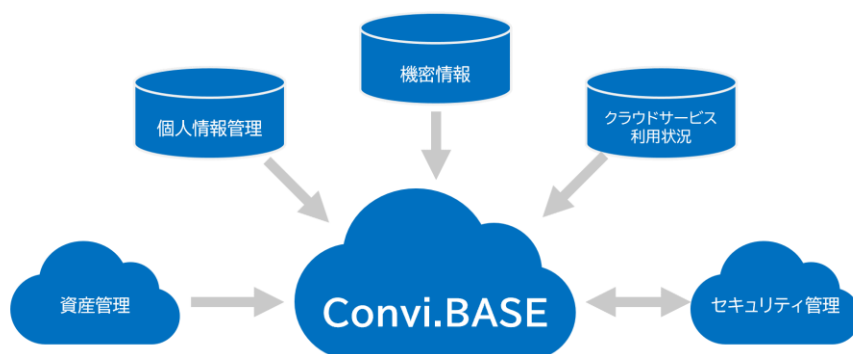
導入のポイント

① SAP S/4HANA CloudとConvi.BASEを連携



基幹システムと連携することで、基幹システムから読み込まれた資産情報は、すぐにConvi.BASEに反映され、現物管理情報を簡単に検索・確認・編集・集計ができるようになりました。棚卸しだけでなく購入から除却までがシームレスにつながり、資産管理業務全体の自動化、効率化を実現しました。資産情報を、基幹システムと連携することに加え、読み取り端末として汎用的なiPhoneを利用できるようになり、端末の利用調整が不要に。全社一斉の棚卸しができるようになったことで、棚卸し業務が圧倒的に効率化、約6,000時間の削減につながりました。

② 資産管理以外にも、あらゆる管理の一元化を実現！



システム開発をするほどではなく、従来Excelで管理していた、個人情報や機密情報、クラウドサービス利用状況などの情報も、Convi.BASEの拡張性を活かして一元管理を実現しました。また、セキュリティ管理を、Convi.BASEと連携することで資産管理業務全体の効率化につながりました。

③ WinActorを活用した連携で、導入コストと期間を大幅に短縮！



基幹システムとの連携は、アドオン開発をするのではなくWinActorを活用することによって、コスト削減、期間短縮、人為ミスもなくなることができました。また、情報機器類においては、財務管理のみならずセキュリティ管理との一体かつ効率的な運用を実現しました。

自らのDXをお客さまへ

NTT-ATは、SAP S/4HANA Cloudの導入後、WinActorを活用し、各種クラウドサービスと連携、全社的なDX推進に取り組み、業務効率化、データ活用の強化、CX/EXの向上など持続可能な成長を実現しています。この「自らのDX」の取り組みから培ったノウハウを活かし、お客さまのDX推進を支援するDX支援ソリューションを提供しています。お客さまそれぞれのDXの進捗段階に合わせて、**共に進化し続けるバリューパートナー**として、変革の実現を力強くサポートします。



お問い合わせ

「DX支援ソリューション」ページのフォームより、お問い合わせください。

ホーム
ページ

<https://www.ntt-at.co.jp/product/dx-sol/>



※記載された会社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。
※本カタログ記載の内容は予告なく変更することがあります。※カタログ記載内容 2025年6月現在